

令和元年度第3回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨

日 時：令和元年10月17日（木）14：00～16：45

場 所：琉球大学医学部附属病院3階がんセンター

出席者：8名（スカイプ参加2名）

傳道聡子（県立中部病院）、伊禮智則（那覇市立病院*代理出席）仲宗根るみ（北部地区医師会病院）、島袋百代（パンキャンジャパン沖縄アフェリエイト）、大久保礼子（琉球大学医学部附属病院）、山田綾美（琉球大学医学部附属病院）

スカイプ：金城美奈子（県立八重山病院）、慶田博子（県立宮古病院）

欠席者：4名

樋口美智子（沖縄国際大学）、仲宗根恵美（那覇市立病院）、伊波義之（沖縄県健康長寿課）、増田昌人（琉球大学医学部附属病院）

【報告事項】

1. 令和元年度第2回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨

資料1に基づき、令和元年度第2回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨が承認された。

2. がん患者ゆんたく会（7～9月）

資料2-1～2-3に基づき、令和元年7月～9月に各拠点病院で開催されたがん患者ゆんたく会について報告があった。

県立中部病院では、外来の待合室にて患者さん同士で声を掛け合う様子が多く見られ参加者も多くなっている傾向がある。また、ご遺族や非がん患者さん等、様々な境遇の参加者がいたと報告があった。今回は家族の体験など語り合い場は和んでいたが、治療中の患者さんなどへの配慮等について今後検討する必要があるとのことだった。

那覇市立病院では、参加体験型の講義などで参加者の聴力や視力への配慮が必要であることが課題として挙げられた。また常連の参加者同士の会話には新規の方が入りにくい場面があり、進行の工夫も検討していきたいとのことだった。

琉大病院では、会場によって雰囲気異なるため、参加者の反応の変化も見られたと報告があった。

パンキャンジャパン沖縄では、8月に琉球薬草を使用した調理実習を開催し、参加者からの反応がとても良かったと報告があった。ご遺族や他がん種の患者さんの参加もあったが、食べること、運動することにとっても関心が強く、調理を通して何気ない会話をされていたとのことだった。

3. がん相談件数（7～9月）

資料 3-1～3-7 に基づき、令和元年 7～9 月の各拠点病院のがん相談件数について報告があった。

北部地区医師会病院では、緩和ケア専従看護師や外来看護師から就労支援に関する相談で誘導が増加していること、AYA 世代の子を持つ親からの相談が多い傾向にあったと報告があった。継続フォローについて外来看護師との連携や周知の面で課題が挙げられた。

県立中部病院では、告知時の同席が多くなっており、気になる患者さんは外来日を把握し声掛けをするように心がけていると報告があった。

那覇市立病院では、7 月は入院中の相談が多く病院稼働率が高かったことも影響していると報告があった。また、院外からは電話相談が多く、治療前・治療中の不安に対して患者さん自身が自主的に相談する傾向が見られたとのことだった。

県立宮古病院では、島外で治療を受ける際の支援や医療費に関しての相談が多く、繰り返し相談に来る傾向があると報告があった。

県立八重山病院では、独居の方から終活に関しての相談があり葬儀者と面談を実施したこと、同じ方に複数回の介入があり相談件数にも反映していると報告があった。また、社労士との面談や AYA 世代の相談もあったとのことだった。

琉大病院では、初診時に相談センターへの案内について相談者からの感想などを聞くような取り組みを始めたと報告があった。相談者からは肯定的な反応が多く、引き続き積極的に聞き取りを行っていきたいとのことだった。

4. がん相談件数集計（7～9月）

資料 4 に基づき、山田委員より令和元年 7～9 月の沖縄県がん相談件数集計について報告があった。集計できた範囲で、治療中の患者さんからの相談が多く、前回（4～6 月）と比較すると、就労に関する相談が増加傾向にあると報告があった。引き続き集計を行い、年度末にはグラフで報告するとのことだった。

5. がん相談支援センターの広報（7～9月）

資料 5 に基づき、山田委員よりがん相談支援センターの広報について報告があった。仲宗根委員より、新聞をみて相談があったが病院を間違えていたケースがあったと報告があり、病院名と電話番号の表記について検討することとなった。また、大久保委員より新聞掲載だけでなくインターネットを見ての相談も増えてきているため、ホームページの整備も行うよう周知があった。

6. 第6回がんサロンネットワーク会

資料6に基づき、山田委員より8月17日に開催された第6回がんサロンネットワーク会について報告があった。各患者会・サロンの活動をお互いの活動を把握でき、また、どの患者会・サロンで課題となっている地域住民・院内外への周知や案内方法についてディスカッションが行われたとのことだった。

今年度は2月に講演会を交えたネットワーク会を開催し、連絡会は年に1~2回開催する予定になった。

7. 第1回がん相談員実務者研修会

資料7に基づき、傳道委員より10月5日に開催された第1回がん相談員実務者研修会について報告があった。「がんゲノム医療と相談員の役割」のテーマで計25名の参加があり満足度も高く、次回取り上げてほしいテーマとして高齢者や独居への支援、就労支援などが多かったとのことだった。県内でのゲノム医療の案内・周知の必要性についても検討された。

8. がんサポートハンドブック作成協力

資料8に基づき、山田委員よりがんサポートハンドブック作成について報告があった。前年度版より大きな改訂はないが細かな文言の変更や各制度についての確認が主に行われ、今後は電子書籍なども検討されているとのことだった。また、就労支援の具体的な相談内容記載について、Q&Aやフローチャートの作成も次年度検討するとのことだった。

【協議事項】

1. 中皮腫キャラバン隊とのセミナー実施について

資料9に基づき、中皮腫キャラバン隊とのセミナー実施について協議が行われた。がんサロンネットワーク会の講演会の一環として開催することとなった。講演内容やプログラムについては再度キャラバン隊と検討し、また、開催会場についても検討中であり、アクセスの良い場所で調整することとなった。

2. 第2回・第3回がん相談員実務者研修会

資料10に基づき、第2回がん相談員実務者研修会について協議が行われた。琉大病院と県立八重山病院主催で「就労支援」をテーマに12月14日の開催を予定している。講師の選定については、県外講師へ依頼中であり未定である。

当日資料に基づき、第3回がん相談員実務者研修会についても協議が行われた。那覇市立病院と県立宮古病院主催で「(仮)がんになった親をもつ子どもへの支援」をテーマに開催を予定しているが、日程については未定である。3月の土曜日で調整中である。

また、伊禮氏より研修会の開始時間を 10 時ではなく 9 時開始の提案があったが、事前打合せを当日に行うため、これまで通り 9 時スタッフ集合、10 時研修会開始が望ましいとなった。

3. がん相談員マニュアルの作成

資料 11 に基づき、大久保委員より国がんのがん情報サービスの内規を基に沖縄県版がん相談員マニュアルの提案があった。相談員の個人情報保護、研究活用への意思の確認、相談記録の取得の同意などについて協議が行われ承認された。記載内容の変更事項については以下詳細。

相談員の個人情報：職種、氏名は開示。職業経験については各病院・組織に委ねる。

研究活用について：相談記録を研究に用いる場合は、適切に対処する。

(電話での事前アナウンスなどは行わない)

相談支援の質の向上、維持等に向けて

・がん相談支援センターの整備に関する検討会の開催：1 回／年

・事例検討会の開催：1 回以上／年

相談記録の取得の同意：各病院のホームページに提示、院内掲示。

掲載文言については、要検討。

「第 9 条 研究協力依頼に対する取り扱い」については削除が望ましいのか、各病院にて確認し、再検討することとなった。

4. その他

- (1) 次回、令和元年度第 4 回情報提供・相談支援部会開催日について令和 2 年 2 月 6 日（木）を第一候補とする。